



JAL不当解雇撤回ニュース

No582号 2019.07.04
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.com>

大もうけ なぜ解決に踏み出さないのか 6月18日 JAL株主総会で行動



6月18日、第70期JAL 定時株主総会が品川グースにて開催されました。参加者は1149名で、質問者は14名(動議2名含む)でした。支援者からは2名が指名され、争議団は5名参加したものの誰も指名されませんでした。国民共闘は、会場前で宣伝行動を行い、92名が参加し878部の資料(株主へのチラシと関東キャラバンの写真報告集)を配布しました。冒頭、初めて議長を務めた赤坂社長は飲酒問題について詫び、取締役10名をはじめ壇上に陣取る全員が起立し頭を下げました。

「発言を履行し、早期解決を」=支援者の二人からの質問

業績は回復しているのに、
なぜ争議は解決方向に進まないのか

最近、安全問題について危惧している。飲酒問題について、ストレスがかかりすぎると、ついついアルコールに頼ってしまうことがある。先ほどからお詫びの話が出されたが、乗務員の労働条件はどうだったのか、労働環境がどうだったのか調査されたのかどうか伝わってこない。また、会場前でビラを配布していた。数年前は人ごとと思っていたが、その後私自身も解雇されたが既に解決した。JALも業績が回復しているのに、なぜ解決の方向に行っていないのか。ビラを配っているのだから問題は解決していないのだと思う。昨年、植木会長が解決すると話していたのに、そういう状況にないようなので、赤坂社長にどう考えているのか聞きたい。

「不当労働行為の中での解雇」
これを踏まえ、経営判断で解決せよ

最近、恐ろしい事例を聞いた。離陸直前に子連れの親子がトイレにいた。通常なら、トイレから出るまで離陸は待つはず。トイレに入ったまま離陸した。定時制優先で発生したのではないのか。大変な問題なので調べ、今後発生しないようにしてほしい。

解雇問題について先ほど回答があったが不正確だと思った。最高裁で確定した不当労働行為があり、その上で整理解雇された。この点を踏まえたうえで争議解決を図ってもらいたい。この争議は経営者の判断でしか解決できない。解決しない限り争議は続く。それが決して会社にとって良いことだとは思わない。そういう視点でオリンピックまでに解決する決断をもって対応してほしい。

会社答弁=「他に方法がないか考え続けていきたい」(赤坂社長)

労働委員会命令は履行済み=植田執行役員(総務本部長)の答弁

解雇の経緯を説明、1回目は不当労働行為について触れず。支援者にその事を指摘された後、裁判中の会社主張を述べ、命令は履行済みと発言。

ZIP エア一等で人員募集した、引き続き労組と話し合う=小田人材本部長の答弁

昨年5月以降の経緯を説明、解雇裁判は最高裁で決着したものと考えている。一部の組合から職場復帰と金銭の要求があり交渉を続けてきた。1年前、企業戦略、ネットワーク、事業領域を広げるところで、プロの人材活用が必要と考え、辞めた方の力も借りたいと採用することを決めた。CAの4割勤務の採用、パイロットのZIP エア一の募集、地上専門業務の募集など、採用試験を受けていただき採用に至っているケースもあり、数十名が既にJALの仕事をしている。引き続き組合とは話し合っていくが、こういう形で進んでいることを理解していただきたい。

赤坂社長の答弁＝採用試験の結果は残念、他に方法がないか考え続けていきたい

何とかして解決したいと考えている。前々からずっと考えている。ZIP エアーや経験者採用に応募いただいたが、採用に至らず残念だ。他にも方法がないかずっと考え続けていきたいと心から思う。その方法については、合理性があって、公明正大でなければならないと考えている。

一般株主からも争議について発言がありました！ 動議はすべて否決

自己資本比率が高すぎる。(57%)

こんなに儲かっているのであれば、従業員や訴訟関係にキチンと支払いをしたらどうか。

動議 (支援者)

審議を打ち切ろうとする社長に継続を求めた。

動議

5億円の役員報酬は多すぎる。表で助けを求めているリストラされた人たちに申し訳ない。稲盛さんの京セラは配当性向50%、ほかの株主も同様にすべきだ。こういう質問風景もUチューブで流せばよい。(争議団の配布資料を掲げた姿は大型スクリーンに)

女性の質問者は一人だけ、気まずい閉会…



男性ばかりの指名が続き、年配の女性が、「女性は指名しないのか」と抗議、慌てた赤坂社長はその女性を指名し、結局、女性はその一人のみであった(争議団を避けたい意図があったのかもしれない)。

12時過ぎから、席を立つ株主もポツポツではじめた。12時半を過ぎても動議がだされ騒然となった中で、「自分をさせ!」「逃げるな!」と質問を求める声は後を絶たなかった。そんな中、顔を映すなという中年男性が「破たんて株主責任を取らされた。外で騒いでいる労働組合は責任を取ったのか。騒ぐのは株主にとって迷惑、いい加減にしてほしい。総会で問うてほしいのは、ナショナルフラッグに戻るための戦略などだ」と大声で発言。これの男性が最後の質問者となった。

植木会長も社長の左側に座っていたが、一言の発声もなかった。彼はこの1年間、自分の言葉が実行されず、会場内で繰り返された質疑をどのように感じただろうか？

飲酒問題への関心の高さを示す質問が多かったが、社員の責任を問う内容は一つもなく、職場環境などを取り上げた発言がされた。会社回答は「再発防止策の実行と社員一人ひとりに寄りそう」と答弁したが、懲戒免職になった乗員は、事情聴取すらされていないという。

今も続くこの飲酒問題は、「経営破綻、そして再建と奇跡のV字回復」の影で発生したJALの諸問題のひとつにすぎない。その点で、解雇争議と根っこは同じである。

今、安全が脅かされている。いつか歩んだ道ではないかと心配される。赤坂社長は「争議解決は合理性があって公明正大でなければならない」と発言した。必要のなかったこの整理解雇こそ合理性もなく、公明正大なものではなかった。

赤坂社長は「他にも方法がないか、ずっと考え続けていきたい」というが、その答えは、正に私たちの統一要求に答えることである。

